

説教題：**安心しなさい**(27～)

聖書:マタイ 14章22～27節

<口語訳>

新約聖書23～ 頁

マタイ 14章22～27節

<新共同訳>

新約聖書28～ 頁

マタイ 14章22～27節

<新改訳第3版>

新約聖書29～ 頁

マタイ 14章22～27節

<塚本訳>

新約聖書112～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ14:22～27節**の「**安心しなさい(27～)**」と、弟子たちに語って下さった主に聴きます。
- ⇒**KT師**が、「嵐の海は、死の象徴、…滅びの象徴と言ってもよい。…その滅びの海を…教会の舟は行くのです。神の子供たちと共に、甦りの主と共にであります」と、語っておられます。
- ⇒嵐の舟旅には、嵐という困難があります。難破の危険も、座礁の危険も、舟旅を終える、死が近づくと狼狽えるとも、**KT師**は、語っておられます。
- ⇒真夜中の舟旅です。舟が陸の近づく直前で、逆風が吹き、主は、山上で祈っておられました。
- ⇒そして、近づくと主を幽霊としか、弟子たち見えず、「主でしたか」と、語ります。

本論；

◇本日、**マタイ書14:22～27節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ14章22～27節**；使徒**マタイ**は、「**安心しなさい**(27～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を知る舟旅を描いています。

◇**14:1～12節**；塚本訳◆**湖の上を歩く**

「22 それからすぐイエスは弟子たちを強いて舟に乗らせ、向う岸に先発させられた、群衆を解散させる間に。

23 そして群衆を解散させると、祈りのため自分だけ山に上られた。暗くなってもひとりそこにおられた。

24 (弟子たちの)舟はすでに幾スタデオも(一スタデオは約五分の一キロ)陸を離れていたが、向い風のため波になやまされていた。

25 第四夜回りのころ(すなわち夜明けの三時ごろ、)イエスは湖の上を歩いて彼らの所に来られた。

26 弟子たちはイエスが湖の上を歩いておられるのを見ると、幽霊だと思って肝をつぶし、恐

ろしさのあまり叫んだ。

27 しかしイエスはすぐ彼らに話しかけて言われた、「安心せよ、わたした。こわがることはない。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ14:22～27節**；「それからすぐイエスは弟子たちを強いて舟に乗らせ、向う岸に先発させられた、群衆を解散させる間に(22)」、「そして群衆を解散させると、祈りのため自分だけ山に上られた。暗くなってもひとりそこにおられた(23)」、「(弟子たちの)舟はすでに幾スタデオも(一スタデオは約五分の一キロ)陸を離れていたが、向い風のため波になやまされていた(24)」、「第四夜回りのころ(すなわち夜明けの三時ごろ、)イエスは湖の上を歩いて彼らの所に来られた(25)」、「弟子たちはイエスが湖の上を歩いておられるのを見ると、幽霊だと思って肝をつぶし、恐ろしさのあまり叫んだ(26)」、「しかしイエスはすぐ彼らに話しかけて言われた、「安心せよ、わたした。こわがることはない(27)」、「主の弟子たち」は、「群衆を解散させる間に、イエスは弟子たちを強

いて舟に乗らせ、向う岸に先発させられた」ので、「舟上の人となりました」。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「祈りのため自分だけ山に上られた。暗くなってもひとりそこにおられた」のです。

⇒**KT師**は、「**御子イエス・キリスト様**」が、ゲッセマネの時と同じように、地にひれ伏して、**神**に祈られたと仰せです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちが嵐で悩んでいる時、舟に近づいて下さったのですが、暗闇の中での主が、幽霊に見えたのです。

⇒主には、全てお見通しで、「安心せよ、わたしだ。こわがることはない」と、語りかけて下さいました。

⇒弟子たちのみならず、私たちも、暗闇でも、明るい昼間でも、主が見えないのです。主を肉眼で見るのではなく、霊の目で見るとだからです。

⇒弟子たちは、直面する嵐対策で、心の思いは一杯であったのです。主が山上で祈っておられることも、彼らの思いの外にあったと思われれます。

- ⇒舟旅は、確実に、死の終着点に向かってい
ますし、嵐にも直面します。悩み、苦しむことも、
度々です。
- ⇒私たちは、罪深さを認め、「安心せよ、わたし
だ。こわがることはない」と、語って下さる復活
の主の霊の声を聴きつつけるのです。
- ⇒終着点には、死と共に、復活の主、甦りのいの
ちを与える主が待っていて下さいますし、
肉眼で見えず、不安を感じることもあっても、
主が、山上で舟旅をじっと見ておられたように、
私たちの人生の舟旅を見守っておられます。
- ⇒主は、弟子たち、私たちに、嵐のような試練を
残し、**神信仰**を訓練を与えて下さいます。霊
において、大人になるためです。主と同じに
なる訓練ではなく、徹底して、自らの自我に死
に、復活のいのち、**神の聖霊**に生きるため
です。
- ⇒【口語訳】 ヘブル 2:18
主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、
試練の中にある者たちを助けることができるの
である。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は**マタイ14:22～27節**の「**安心しなさい(27～)**」と、弟子たちに語って下さった主に聴きます。

⇒**KT師**が、「嵐の海は、死の象徴、…滅びの象徴と言ってもよい。…その滅びの海を…教会の舟は行くのです。神の子供たちと共に、甦りの主と共にであります」と、語っておられます。

⇒嵐の舟旅には、嵐という困難があります。難破の危険も、座礁の危険も、舟旅を終える、死が近づくと狼狽えるとも、**KT師**は、語っておられます。

⇒真夜中の舟旅です。舟が陸の近づく直前で、逆風が吹き、主は、山上で祈っておられました。

⇒そして、近づく主を幽霊としか、弟子たち

見えず、「主でしたか」と、語ります。

⇒私たちの**神信仰**は、常に浮き沈みがあります。

大事なものは、舟に「**御子イエス・キリスト様**」に、乗っていただくことです。

⇒時に、舟が難破しそうでも、「**御子イエス・キリスト様**」は、通りすぎようとされることもあるのです(マルコ6:48)。主は、風も。嵐も、波も、支配なさるからです。

⇒【口語訳】 ヘブル 2:3～4

わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。

